

## 令和4（2022）年度大学生訪韓団（派遣）の記録

### 1. プログラム概要

【目的】日本全国から選抜された大学生らを韓国に派遣し、大学訪問等を通じた同世代との交流、「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」への参加等を通じて、韓国の社会や文化に対する理解を深め、日本の魅力を広く積極的に発信することにより、今後の日韓間における相互理解の促進や信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的に実施しました。

#### 【参加者】

プレプログラム（オンライン）日本の大学生等 23 名（団長・引率各 1 名を含む）  
派遣（オフライン）日本の大学生等 23 名（団長・引率各 1 名を含む）

【訪問地】ソウル特別市、大田広域市、忠清南道扶余郡、忠清北道清州市

### 2. 日程

プレプログラム（オンライン）：

9月10日（土）訪韓前オリエンテーション

「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」での日本の魅力発信内容を準備

9月17日（土）韓国大学生訪日団団員と訪韓時の交流内容について意見交換

訪韓プログラム：

9月23日（金）仁川国際空港から入国

9月24日（土）訪韓時オリエンテーション

【交流】韓国大学生訪日団団員とのグループ別プロジェクト準備

【交流】韓国大学生訪日団団員との交流フィールドワーク

9月25日（日）【交流】「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」でのブース運営

9月26日（月）【表敬訪問】韓国外交部、在大韓民国日本国大使館公報文化院

【大学訪問・講義聴講】高麗大学グローバル日本研究院

「東アジア安全共同体について考える－災害、高齢化社会を中心に」

【交流】高麗大学キャンパスツアー及び日韓文化研究会との交流

9月27日（火）【視察】宮南池、百済文化団地

【講義聴講・交流】大田地域の地元青年との交流ワークショップ

「コミュニティーを通じた都市再生と持続可能なまちづくり」

【視察・体験】大清湖ロハスキャンプ場、エコツーリズム体験

9月28日（水）【視察】ロッテワールドタワー・ソウルスカイ、石村湖水

成果報告会（訪韓成果・帰国後の活動計画発表）

9月29日（木）仁川国際空港から出国

### 3. プログラム記録写真

	
<p>9月24日(土)【交流】韓国大学生訪日団 団員とのグループ別プロジェクト準備</p>	<p>9月25日(日)【交流】「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」でのブース運営</p>
	
<p>9月26日(月)【大学訪問・講義聴講】高麗大学グローバル日本研究院</p>	<p>9月26日(月)【交流】高麗大学キャンパスツアー及び日韓文化研究会との交流</p>
	
<p>9月27日(火)【視察】百濟文化団地</p>	<p>9月27日(火)【講義聴講・交流】大田地域の地元青年との交流ワークショップ</p>

### 4. 参加者の感想(抜粋)

#### ◆ 日本 学生

「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」では、今まで交流してきた同世代だけではなく、子どもからお年を召した方まで幅広い層の韓国の一般市民の方々と直接交流し、対話することができました。また、私たちがブース運営の準備段階から関わることで、日本

文化を伝えることへの責任感を持って参加でき、貴重な経験になりました。

◆ **日本 学生**

「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」に参加できたことが最も印象に残っています。日韓関係の悪化が報じられる中で、あれだけ幅広い年齢層、かつ多くの方々が私たちのブースに来てくださるとは想像していませんでした。私たち市民レベルでの交流が、日韓両国の人と人との関係に深く寄与するのだと自覚することができました。

◆ **日本 学生**

「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」でのブース運営やフィールドワーク等を通じて、実際に多数の韓国市民の方々と交流する中で、今まで私自身が日本に対して無関心だったことを改めて痛感しました。今後、日韓関係を理解していくためには、まずは日本について理解を深めなければならないと思いました。そのためにも、私自身が日本に対する知識を増やしていこうと思います。

◆ **日本 学生**

本プログラムへの参加を通じて、普通の旅行等では絶対に聞くことができないような話を伺い、大変良い経験になりました。音楽やドラマ、食文化等はきっかけにすぎず、そこから歴史や政治等について知っていくことで、日韓間における相互理解につながることに気付きました。私自身の知識不足を痛感させられるとともに、今後勉学に励みたいと強く思うようになりました。

**5. 受入れ側の感想（抜粋）**

◆ **韓国側受け入れ機関担当者**

3年ぶりに再開されたオフラインでの青少年交流事業ということで、期待も大きく、日本からの参加者になるべく有意義に、かつ楽しい時間を過ごせるよう努めました。そして、実際に訪韓し、本当に熱心に参加しながら韓国に対する理解度を高めようとする姿を見て、うれしさや成果を感じ、本事業の真価を感じることができました。訪韓団実施に際しご尽力いただいた外務省、日韓文化交流基金の関係者の皆様にも心より感謝申し上げます。

◆ **韓国側交流相手 学生**



以前、オンライン交流プログラムと一緒に参加した日本側参加者と今回初めて対面で会い、話をしたり、韓国文化を伝えたりすることができてよかったです。今後もこのような交流が続くことで、日韓関係がより一層強固になっていくことを期待しています。



## 6. 参加者の対外発信

	 <p>대학생 방한단 ⑤ ~문화교류 = 상호이해의 입구? </p> <p>~</p> <p>한국 Day 4 어제는 유카타, 오늘은 각뚝하게 정장 입는 바쁜 일본 멤버... 우리의 기원을 딱 하나.. 웃으로 가득한 울 케리어..재발..선물..</p>
<p>「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」についての発信 水引及びかるたの体験ブースを運営。韓国の一般市民が多数来場し、大好評を得た。来場者の中には、同日をきっかけに日本文化に興味を持ったという反応もあった。</p>	<p>日韓間の相互理解についての発信 相互理解を促進するためには、相手国に対する理解を深める以前に、自国に対する知識や理解が必要であるとSNSで発信。韓国の閲覧者とは、日韓両国の文化や社会の違いについて感じたことを共有し合うことができた。</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p><b>アクション・プランの発表 1</b> 帰国後も引き続き講演会や交流会に参加し、様々な世代と交流することで、日韓関係を多角的な視点から見つめ直すとともに、SNSを活用して日韓両国の魅力を発信していく。</p>	<p><b>アクション・プランの発表 2</b> 今回の訪韓団で学んだことや日本の社会、大学生活等についてブログで執筆する。また、将来的には日韓両国の架け橋になれるよう、今回の経験を就職活動に生かす。</p>
<p><b>액션플랜의 발표 1</b> 귀국후에도 계속 강연회나 교류회에 참가하여 다양한 세대와 교류함으로써 한</p>	<p><b>액션플랜의 발표 2</b> 이번 방한단에서 배운 것, 일본 사회, 대학생활 등에 대해서 블로그에 집필한다.</p>

<p>일관계를 다각적인 시점으로 바라보며 SNS 를 활용해서 한일 양국의 매력을 전파한다.</p>	<p>또한, 장래에는 한일 양국의 가교가 될 수 있도록 이번 경험을 취직활동에 활용한다.</p>
--	---

**1週間の訪韓を通して**

訪韓中の様々な人々との出会いを通して、日韓両国間の相互理解の大切さを改めて学んだ。また、そこから理解をどのように深化させていくのかについて考えさせられた3週間となった。

韓国に関心を抱くことが出来るようきっかけとして、食文化やポップカルチャーなどが考えられる。より多くの人々に関心を抱いてもらえるようなアクション・プランを設定したので、物販的に取り組んでいきたい。

**私のアクション・プラン**

①所属ゼミナールでの模擬授業を出席し、ゼミ担任と学生に、韓国の文化を伝える活動を行う。  
②4月から小学校勤務(予定)なので、子どもたちに日本のよさ、韓国のよさを伝える活動を行う。

**3か月以内の行動計画(アクション・プラン①について)**

~10月12日	模擬授業の單元を決める
10月13日~11月2日	学習指導要領(略称)の作成と、発表部分の決定
11月7日~11月18日	教育実習に入るため、実習先で子どもへのわかりやすい物事の伝え方を実践を通して学ぶ
11月19日~11月29日	予定4月の半休アンケート作成 模擬授業の練習
11月30日	模擬授業実施
実施後	アンケートの集計、振り返り

**アクション・プランの発表 3**

来年から教員になる予定につき、在学中は模擬授業の機会を利用し、来年度以降は実際に教育現場において、日韓両国の魅力や相互理解の大切さについて伝えていく。

**액션플랜의 발표 3**

내년부터 교사가 될 예정이며, 재학 중에는 모의수업을 하며, 내년에는 직접 교육현장에서 한일 양국의 매력과 상호 이해의 중요성에 대해 알려주고 싶다.

**実施団体名 : 公益財団法人日韓文化交流基金**